

(4) 雷門通り景観基本軸

1) 対象区域

本地区は、雷門通りの境界から概ね30mの範囲（街区単位）とします。

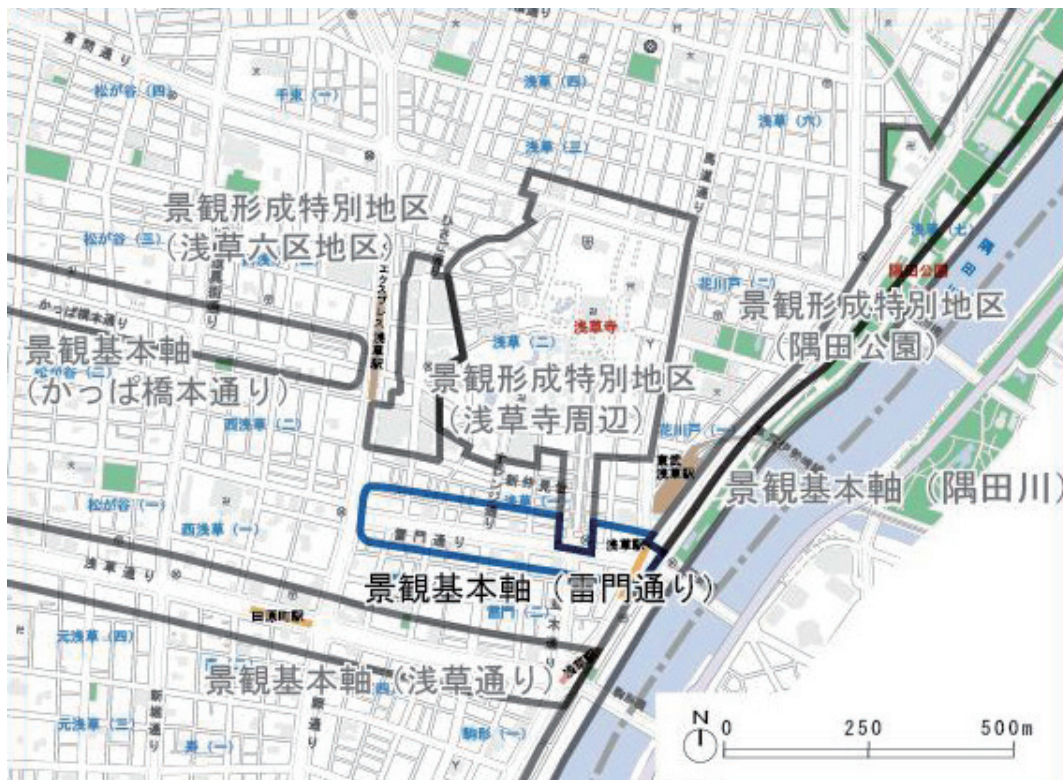


図 2-5 対象区域

2) 景観特性

- 雷門通りはかつて浅草寺の広小路であり、門前町として賑わいある観光、商業ゾーンを形成しています。特に地下鉄出入口、隅田川方面から雷門へのアクセス路となる、観光動線としても中心となる通りです。
- 毎年、三社祭やサンバカーニバル等のイベントにも使用され賑わう通りです。
- 雷門通りは、シンボルロードとして歩道幅員の拡幅や浅草を模した横断防止柵、ファニチャー類、アーケード等の整備が行われています。
- 沿道北側には浅草のイメージによる赤と緑のアーケードが整備され、門前町として特徴のあるみやげ物屋、飲食店等が並んでいます。沿道南側には中高層の飲食店、小売店、マンション等が連なっています。
- 通りからは隅田川対岸のアサヒビール吾妻橋ビルなどの現代的デザインの建築物が目を引きます。
- 沿道には、雷門など知名度の高い景観資源が存在し、区を代表する風景を創り出しています。
- 通りの北側、浅草寺周辺には、雷門通りを起点として、すしや通りやオレンジ通り等の特徴のある商店街が伸びています。
- 通りの東側から望むことが出来る東京スカイツリーなど新たな景観もつくられつつあります。

3) 景観形成の目標（基本的方向）

雷門通りやその周辺の地域は、浅草寺の門前町としての特徴のある飲食店やみやげ物屋などの商店街を形成しています。また、雷門通りには、浅草観光の名所である雷門や神谷パーなど知名度の高い景観資源が存在しています。これらの景観資源や地域性を活かしながら、区民や観光客が回遊したくなるようなまち並みの創出を図り、区を代表する通りとして賑わいと風格のある都市景観の形成を目標とします。

1 沿道の歴史や文化を活かした 絵になる景観づくり

雷門通り沿道の雷門、神谷パー、また周辺の浅草寺、浅草神社といった、知名度が高く区の歴史を代表する資源を活かし、門前町としての歴史を踏まえた親しみのある、絵になる景観づくりを進めます。

2 沿道の個性を活かした景観づくり

浅草観光の中心として、様々な景観資源の存在や浅草寺門前町らしい特徴ある飲食店やみやげ物屋が形成する商店街の雰囲気を活かした景観づくりを進めます。

3 景色を楽しみながら回遊できる 景観づくり

雷門通りには様々な景観資源が存在し、通りから東京スカイツリーも望むことができます。歩行者がそれらの景観資源を楽しみながら、回遊できる景観づくりを進めます。



▲ 雷門通りの眺め 1



▲ 雷門通りの眺め 2



▲ アーケード下の通りの眺め



▲ 雷門周辺の眺め

4) 景観形成方針【法第8条第3項】

1 浅草の歴史的・文化的景観資源を活かした景観を形成します

台東区、ひいては東京都を代表する雷門や知名度のある神谷バーなどの周辺では、それらの景観資源を活かした景観を形成します。

- 景観資源周辺での誘目性の高い屋上広告物や壁面広告物等の屋外広告物は景観資源に配慮します。
- 隣接する建物は景観資源に配慮し、デザインや色彩の協調を図ります。



▲ 神谷バー

2 区を代表する観光拠点に相応しい景観を形成します

東京スカイツリーや隅田川（水上バス乗船場）、地下鉄出入口と雷門を結び国際的に観光客が集積する通りに相応しい、賑わいと風格を持った沿道のまち並み景観を創出します。特に、祭りの賑わい、人の賑わいがより映えるように、景観の背景となる沿道建物は、落ち着きと風格を持ったしつらえとします。また、東京スカイツリーへの眺めを新しい景観として演出し、さらに東京スカイツリー上からの視線も意識した景観づくりを進めます。

- 美しく経年変化する石や木などの自然素材や、銅板などの金属等の活用を図ります。
- 色彩や素材、凹凸のある壁面形状等により適度に分節化された外観・ファサードの演出を図ります。
- 建築物は周辺建物に配慮した色彩とし、景観色彩ガイドラインに適合させます。
- 建物低層部は店舗等の賑わいを演出する空間とし、開口部のしつらえや商品ディスプレイの工夫を図ります。
- 屋外広告物、壁面広告物は周辺環境に配慮した落ち着きのある色彩、大きさ、デザインとします。
- 屋上広告物については、主要な眺望点や通りから、東京スカイツリーへの眺めを阻害しないよう配慮します。
- 建築設備や附帯設備を緑化やルーバーにより修景を図ります。
- ファニチャー、サイン類等は浅草らしいしつらえを図ります。
- 積極的に屋上緑化を進め、東京スカイツリーからの視線を意識した景観形成を図ります。



▲ 東京スカイツリーへの眺め



▲ 賑わいの演出された店舗の例

3 佇める場や快適な歩行環境を整え、回遊性を楽しめる景観づくりを進めます

浅草の重要な観光動線を担う通りとして、また、通りの東側から東京スカイツリーの眺望を楽しむ通りとして、回遊性を意識した景観の創出を図ります。

- 店先へ緑や草花を設置し、潤いのある空間の形成を図ります。
- 店舗の前にベンチを設置するなど、佇める空間づくりを図ります。
- 東京スカイツリーを眺められる場所などで佇める空間づくりを図ります。
- 統一感のあるサイン等を充実し回遊性の向上を図ります。
- 質の高い照明によるライトアップ、ショーウィンドウの設置などの夜間景観の工夫を図ります。



▲ 店先への緑化の例

4 個性あるアイ・ストップとなる街角等の魅力を高める景観を形成します

特徴ある商店街や通りとの交差点においては、商店街の特徴を活かし、ふと、横道にそれたくなるような街角のしつらえとすることにより、地域の個性を高め回遊性をつくると共に、浅草全体としての一体感のある景観を形成します。

- 交差する商店街や通りに相応しい、開放的な店構えや建物デザインの工夫を図ります。
- 街角にオープンスペースやシンボルツリーの配置を図ります。



▲ オレンジ通りへと続く交差点



▲ 開放的な店構えの店舗

5) 景観形成基準（行為の制限）【法第8条第2項2号】

地域の景観特性を活かし、地域の魅力を高める配置・形態意匠とし、敷地全体でバランスの取れた外観となるようにするとともに、建築物・工作物・開発行為の各基準に適合するものとします。

■建築物の景観形成基準

項目	景観形成基準
配置	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 敷地内やその周辺に歴史的・文化的な資源（祭りの場など）や残すべき自然などがある場合は、これらを活かした配置となるよう配慮する。 <input type="checkbox"/> 駐車場、駐輪場や設備は、通りから見えない位置に配置する。やむを得ず、通りに面する場合は、植栽や目隠しなどによって、目立たせないように配慮する。
高さ・規模	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 雷門通りから見える建築物は、周辺建築群のスカイラインとの調和を図り、著しく突出した高さの建築物は避ける。 <input type="checkbox"/> 雷門通りの主要な交差点からの見え方に配慮する。
形態・意匠 色彩	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 建築物等の形態・意匠は建築物全体のバランスだけでなく周辺建築物等との調和を図る。 <input type="checkbox"/> 周辺に歴史的・文化的資源がある場合は、これらを生かし、調和を図るよう配慮する。 <input type="checkbox"/> 雷門通りに面する建築物の低層部にある店舗等は、内外の活動が相互に見えるよう工夫するなど、可能なかぎり屋内外の一体性や連続性を持つよう配慮する。 <input type="checkbox"/> 建築物に付帯する屋外設備や階段等は、高層階や上空からの視線に配慮するとともに、通りから見えない位置に配置する。やむを得ない場合は、建築物と一体的な意匠とするか、ルーバーや緑化などにより修景するなど、周囲から目立たない工夫を施すなど建築物本体や周辺との調和を図る。 <input type="checkbox"/> 建築物等の色彩や素材は、次の事項に適合するとともに周辺との調和を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・外壁の素材は、耐久性があるものを積極的に使用し、光沢があるものは控える。 ・地域で親しまれている色彩の活用に努める。 ・外観の色彩は、別表に定める基準に適合するものとする。 <input type="checkbox"/> エリア内にある景観まちづくり協定の区域に該当する場合は、その協定の内容に沿ったデザイン・色彩を最大限尊重する。
公開空地 外構・緑等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 外構計画は、敷地内のデザインのみを捉えるのではなく、隣接する敷地や道路など、周辺のまち並みとの調和を図った色調や素材とする。 <input type="checkbox"/> 雷門通りに沿って変化する景観の魅力を増すよう、アイ・ストップとなる樹木を配置する等、変化と魅力をもつ景観形成を図る。 <input type="checkbox"/> 通り沿いにオープンスペース設置した場合は、賑わいの演出を図る。 <input type="checkbox"/> 高層階や上空からの視線に配慮し、できるだけ屋上緑化を図る。 <input type="checkbox"/> 雷門通り側に積極的に緑や花を植えることができる場所を設け緑化を図る。 <input type="checkbox"/> 緑地や植栽等に照明を設置するなど、夜間でも適度な明るさを確保するよう努める。 <input type="checkbox"/> 駐車場・駐輪場の出入り口は、できるだけ通りから見えないように植栽等で修景する。

■工作物の景観形成基準

項目	景観形成基準
高さ・規模	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 雷門通りの歩行者に圧迫感を感じさせないように配慮する。
色彩	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 色彩や素材は、次の事項に適合するとともに、周辺との調和を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・素材は、耐久性があるものを積極的に使用し、光沢があるものは控える。 ・地域で親しまれている色彩（別表参照）の活用に努める。 ・外観の色彩は、別表に定める基準に適合するものとする。

■開発行為の景観形成基準

別表1参照